

理工学部

I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2018年度大学評価結果総評】(参考)

理工学部として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定され、継続的・組織的なチェックが行われている。これらは学則に明示されており、Web ページで教職員および学生に周知するとともに社会に公表されている。教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は履修の手引きおよび Web ページに掲載・公表されている。体系化され配置された科目に対し、学部として適切な教員を人選して教育を行うことで、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されている。PBL を必修として取り入れることやインターンシップの単位化、専門実験での学生に対する諮問など効果的な授業形態の導入に取り組んでいる。学生の修学支援のため、上級生が下級生の相談を受け付けるチューター制度を実施している。成績の評価方法や評価基準をあらかじめシラバスに明記し、それに基づいて厳格な評価を行っている。学生の成績分布や進級などの状況は、学科ごとの学生の GPA の分布や必修科目の不合格者数として把握され、進級、留年状況も各学科の教室会議並びに学部教授会で共有されている。TOEIC テストや学生の学会発表数で学習成果を評価する取り組みも行われている。採用・昇格の基準等において、教員に求められる能力や資質等が教授会規程に内規として定められている。高年齢層に偏りがちだった年齢構成比が 2017 年度は平均化に向かっている。卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況は、学科主任会議および専修会議単位で把握されている。以上のように、評価項目の各基準について、一定の水準を保った活動や取り組みが行われていると評価できる。

学部独自の取り組みなどを積極的に進めていると評価できる。今後は、そうした取り組みを評価するための、より客観的な評価指標の設定が期待される。さらに、PDCA サイクルを確実に回して成果を上げていく上でも、第三者にもわかるような形で各取り組みの自己点検・評価が行われることを期待したい。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2018 年度大学評価委員会の理工学部に対する評価では、「評価項目の各基準について、一定の水準を保った活動や取り組みが行われていると評価できる」との評価がある一方で、「より客観的な評価指標の設定が期待される」、「第三者にもわかるような形で各取り組みの自己点検・評価が行われることを期待したい」との指摘があった。

理工学部では、上記評価や課題に対して、総評で述べられているような各種活動を継続的に進めている。昨年度新たに、FD 委員会を設置し FD 活動を組織的に進める体制を強化した。

「より客観的な評価指標の設定が期待される」、「第三者にもわかるような形で各取り組みの自己点検・評価が行われることを期待したい」との指摘に対して、FD 委員会において対策を検討した*。

その結果、「学びの質」向上のための客観的指標については、既に行われているプレースメントテスト、補完教育科目やチューター制度の一部定量評価を含む客観的指標について学科別に丁寧なケア (PDCA サイクルのチェックの部分) することで、十分に対応できるとの結論に至った。したがって、今後は各学科にて丁寧なケアを行うこととする。「教育の質」向上のための客観的指標については、優れた「教育の質」向上に向けた学科や教員個別の取り組みをさらにわかりやすく情報共有化し、理工学部全体としての組織的な取り組みを推進することにより、「学びの質」向上の PDCA を踏まえた連関性のある指標評価が可能であるとの結論を得た。

2019 年度はこれら結論を踏まえ、各種データを収集・整理し学部で共有することにより可視化を図る。

*根拠資料：2018 年度 FD 委員会答申

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

昨年度の理工学部への指摘に対して、新たに FD 委員会を設置され、そこで対策が検討されるなど FD 活動を行う体制が強化されたことは高く評価できる。今後も FD 委員会を中心に、継続的に FD 活動が実施されることを期待したい。また、「学びの質」および「教育の質」向上のために、2019 年度は、「各種データを収集・整理し学部で共有することにより可視化を図る」とのことであるが、今後一層の対応に期待したい。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2019年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

か。	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S A B
<p>※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記の教育課程の編成・実施方針に基づき、体系化され配置された科目に対し、学部として適切な教員を人選し、各課程に相応しい教育内容を提供している。 2019年度に実施予定の大幅なカリキュラム改定に向けての検討を実施し、2019年度のカリキュラムを作成し確定させた。 新カリキュラムは2019年度から運用を開始した。2019年度は適切に運用されていることをウオッチする。 	
<p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2019年度に実施予定の大幅なカリキュラム改定に向けて、より適切なカリキュラムとなるように検討、精査し完全なものとした。 新カリキュラムに対応し、カリキュラムマップを作成しカリキュラムの改定を行った。 教職課程の申請にともない、2019年度のカリキュラム改定を意識し、教職カリキュラムを精査するとともに、見直しを行った。 	
<p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部生のための履修の手引き 理工学部教授会資料 カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを公開した。(http://www.hosei.ac.jp/riko/NEWS/topics/180521.html) 	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S A B
<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>教育課程の編成・実施方針に基づき、機械、電気電子、応用情報、経営システムの各学科の専門教育では、コース制を設け教育課程を体系化している。さらに、コースや境界領域で選択科目の履修モデルを設け体系的な学びを可能としている。一部の学科では、コースごとにカリキュラムツリーを作成している。創生科学科ではコース制は設けていないが、4つの学習フィールドを設定し、理工学部教育課程編成・実施方針に基づき有機的なつながりを理解する能力、多様な領域へ適用できる能力の育成等、時代の要請に合った教育課程を体系的に編成している。</p> <p>学科ごとにカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを作成し順次性・体系性を確認するとともに、可視化を行っている。</p>	
<p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>これまでのカリキュラムの体系性、体系性を学科ごとに見直し、2019年度から新カリキュラムを作成した。新カリキュラムは2019年度から実施する。カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを作成し体系性を確認するとともに、可視化を行う。2018年度カリキュラムマップはWebに掲載してあるが、新カリキュラムマップ、カリキュラムツリーは5月に公開予定である。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部生のための履修の手引き 理工学部教授会資料 理工学部の教育目標及び三つのポリシーについては、webに掲載して社会に対して公開している。(http://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/policy/index.html) 	
③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S A B
<p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>建学の理念を踏まえ、豊かな人間性に支えられた自由な思考能力を育成するための幅広いカリキュラムを用意し、さらに学びの多様化に対応すべく他学科科目の履修も可能としている。また、教養科目全体を語学系、人文・社会・自然科学系、保健体育系、数学・理科系、リテラシー系に大別し体系化している。</p>	
<p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>教養科目については、進級条件、選択必修科目対応等を適切に見直した。2019年度から実施する。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・理工学部生のための履修の手引き	
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次教育は教養科目の中で実施し、特に、付属校と特色ある高大連携プログラムを検討・実施するとともに、付属校推薦入試と指定校推薦入試の進学予定者に入学前の学習プログラムを設けている。また、理工学部新入生全員に対し、数学・理科におけるプレースメントテストおよび TOEIC を実施し、能力別のクラス分けも配慮している。さらにプレースメントテストによりリメディアル科目（入門物理、入門数学）の受講を個別の学生に対して促している。また、各学科では新入生のオリエンテーションや歓迎会等を企画し、新入生の円滑なスタートのためのサポートを行っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部生のための履修の手引き ・プレースメントテスト実施報告書 ・理工学部教授会資料 	
⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B
<p>※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>2010年度から国際化に対応するためのSA (Study Abroad) プログラムを継続的に実施している。この他、国際化を意識した英語能力向上のための少人数教育を必修科目として実施している。</p> <p>小金井キャンパスにおいてグローバルオープン科目を開設している。</p> <p>留学生については、留学生ガイダンスや留学生歓迎会を行うなど、大学になじみやすいサポートを行っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 ・理工学部生のための履修の手引き 	
⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>キャリア教育では、3、4年次に対してインターンシップを積極的に実施している。また、一部のPBLにおいて、他大学や企業と連携して実施している。多くのゼミ活動においては、企業や大学との共同研究の参加、学会等で発表を通じて、実社会での活動を行っている。さらに、一部のゼミにおいては、チームで研究を行うことにより、コミュニケーション能力を養っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部生のための履修の手引き ・理系学部研究室ガイド 	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科別ガイダンスで履修の手引きを配布している（シラバスはWeb閲覧可能）。 ・学科主任や実験・実習、演習担当教員による個別試問を含めた十分な履修指導を行っている。 ・各学科においてオフィス・アワーを周知し、学生の履修相談に対応している。 ・低学年（1、2年生）に対しては、クラス担任による個別の履修指導を行っている。 ・下級生に対する上級生の成績優秀者によるチューター制度を設けている。 ・一部学科では、1年生に対して少人数グループによるプレゼミ制度を設けてきめ細かい指導を行っている。 ・学科ごとにチューター制度の利用者数の集計を行っている。 ・3年次、4年次では、全学生のゼミ配属が行われ、少人数かつ密な指導を行っている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部生のための履修の手引き ・理工学部教授会資料 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B
※取り組み概要を記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・重要な科目については講義に加え演習を設け習熟度を上げている。 ・科目によってはスキル向上のため、少人数クラスとし必修科目としている。 ・1年次から科学実験、物理学実験、化学実験、生物学実験、2年生以上においては少人数グループによる専門実験、ゼミ実験、PBL等を充実させ専門分野のセンスを養っている。 ・オフィス・アワーなどの種々の機会も併用し、個別の学習指導も行っている。 ・専門科目の実験については、一部の学科で学生ひとりひとりに対してすべての実験項目で試問を行い個人ごとに理解度をチェックし密な指導を行っている。 ・3年次、4年次では、全学生をゼミに配属し、少人数かつ密な指導を行っている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・理工学部生のための履修の手引き ・研究室配属結果資料 	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組み概要を記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習時間を確保する目的で履修登録科目の履修制限を実施している（原則として春・秋学期の各30単位かつ通年49単位）。ただし、優秀な学生に対する学びの機会を確保するため、2年次以降はGPAが3.0以上の学生については通年49単位の履修上限を60単位に変更している。 ・実験については、毎週レポートの提出を課し、予習・復習時間が平均化するようにしている。 ・シラバスに予習復習時間を記述し、学生に自覚を促している。 ・ゼミ活動においては、学生に実験や勉強のための滞在スペースを与え、学校にて勉強を行う環境を整えている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・理工学部生のための履修の手引き ・ガイダンス資料 	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生自身で問題を発見し、その解決を考える力をつけるため、PBLを必修として、「主体的な学び」を視野に入れた授業形態を導入している。 ・実社会での体験を通じて学ぶインターンシップ科目を設定し、研究・技術者としてのリーダーシップ能力等の育成とその充実も目指している。 ・専門科目の実験については、一部の学科において学生ひとりひとりに対してすべての実験項目で試問を行い個別に理解度をチェックし緻密な指導を行っている。 ・3年次、4年次では、全学生がゼミに配属され、少人数かつ密な指導を行っている。 ・ゼミ活動においては、企業との共同研究や学会発表を行うことにより、身に着けた知識を実践的に役立てている。 ・一部の学科を除き全教員によるオムニバス形式による学科ごとの専門分野の全体を理解するための必修科目を用意している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・理工学部生のための履修の手引き 	
⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※どのような配慮が行われているかを記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの授業形態に応じて、講義、語学、演習・実験等において、1授業あたりの学生数が配慮されている。プログラミングなどの必修科目については過剰な人数にならないように2クラスとしている。特に会話形式の必修語学授業、実験装置の制約に関する演習・実験科目等で1クラスの学生数の上限を概ね設けている。 ・卒業研究等のゼミ科目においては10人前後となるように考慮している。 ・留年者、休学者及び退学者の情報を学科または学部執行部の会議で把握している。成績不振の学生に個別で学科主任または担当教員から対応を行っている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・理工学部生のための履修の手引き	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績の評価方法、評価基準については Web シラバスに明記し厳格な運用を行っている。 ・成績評価に関しては GP 及び GPA、場合により GPT を算出している。 ・成績評価について全体のフィードバックを行い評価基準の共通認識を高めている。 ・成績公表後一定期間、学生から成績を問い合わせられる仕組みを実施し、教員と学生の意識を一致させている。 ・授業がシラバス通りに行われているかの検証について、授業相互参観の組織的な実施や授業改善アンケートによってある程度の状況把握を行っている。 ・卒業研究については、卒論中間発表や卒論発表会を実施することにより、複数の教員により単位認定の判断を行っている。 ・卒業研究については、卒業研究の結果としての卒業論文の提出を義務付けている。 ・理工学部学生モニターを実施し、授業がシラバス通りに行われているかどうか確認している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 ・Web にて公開されているシラバス 	
②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験、レポート、平常点などによって、総合的かつ厳格に成績評価を行っている。また、成績発表後の一定期間中に、学生による成績評価の調査申請制度を設定・実施している。 ・専門科目の実験については、一部の学科で学生ひとりひとりに対してすべての実験項目で試問を行い個別に理解度を把握している。 ・3年次、4年次では、全学生がゼミに配属され、担当教員が日常的に個別に指導等を行い正確な成績を評価している。 ・成績公開後一定期間学生から成績を問い合わせられる仕組みを実施し、教員と学生の意識を一致させている。 ・卒業研究については、卒論中間発表や卒論発表会を実施することにより、複数の教員により単位認定の判断を行っている。 ・卒業研究については、卒業研究の結果としての卒業論文の提出を義務付け、全教員が参照できるようにしている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 ・理工学部生のための履修の手引き 	
③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科に就職担当を置いている。 ・各学科とキャリアセンターとが連携しながら把握している。 ・就職・進学情報は大学院専攻会議で共有している。 ・各学科でも企業訪問を受け付け、状況の把握に努めるとともに、学生に対する紹介などを行っている。 ・3、4年次での全員学生を対象として少人数ゼミによる教育の中で、就職活動についても指導、情報交換を行っている。場合によっては企業の紹介等も行っている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。 ・学生の学習成果を測定するため GPA の学科別分布、必修科目の不合格者統計を取り分析している。 ・進級、留年状況は学科教室会議ならびに学部教授会で把握し、2018年度はカリキュラムの変更や進級条件の見直しを行 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>う予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語力については入学年度4月と12月、および2年次秋にTOEICテストを行い学習効果の検証を行っている。これにより少人数教育と能力別クラス編成で大きな教育効果を得ている。 新入生に対しては、プレースメントテストやTOEICの結果をフィードバックし、リメディアル教育等に生かしている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部教授会資料、学科教室会議資料 FD委員会答申 	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語力については入学年度4月と12月、および2年次秋にTOEICテストを行い学習効果の検証を行っている。 新入生に対しては、プレースメントテストの結果をフィードバックし、成績により個別にリメディアル科目の受講を促している。 専門科目の実験については、個人個人に試問を行い一人ひとりの理解状況を把握している。 試験の成績のみでなく、研究成果の学会発表等を学習成果の一つの指標としている。 3、4年次での全員の少人数ゼミによる日々の教育の中で、学習成果や研究成果を正確に把握している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部教授会資料、学科教室会議資料 	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用を行っている。 学生の学習成果を測定するためGPAや分布、必修科目の不合格者統計を取り分析している。 進級、留年状況は学科教室会議ならびに学部教授会で把握している。 英語力については入学年度4月と12月、および2年次秋にTOEICテストを行い学習効果の検証を行っている。これにより少人数教育と能力別クラス編成で大きな教育効果を得ている。 新入生に対しては、プレースメントテストの結果をフィードバックし、リメディアル教育等に生かしている。 3、4年次での全員の少人数ゼミによる日々の教育の中で、学習成果や研究成果（学会発表等）を正確に把握している。 卒業研究については、卒業研究の結果としての卒業論文の提出を義務付け、全教員が参照できるようにしている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部教授会資料、学科教室会議資料 	
④学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績に関する基本統計データをグラフや表などの形で可視化している。 各種分析法を適切に施して得られたデータの可視化については、各委員会等で継続的に検討し教授会等で情報共有を行っている。 付属校推薦入試と指定校推薦入試の進学予定者については入学前にオンライン学習を課しており、進捗状況や得点等を可視化し把握している。 プレースメントテストについては点数データを把握し、本人へのフィードバックおよびリメディアル教育に活用している。 卒業研究については、卒業研究の結果としての卒業論文の提出を義務付け、全教員が参照できるようにしている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部教授会資料 	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取	<input checked="" type="checkbox"/> S A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

り組みを行っていますか。	
<p>※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレースメントテスト結果の集計 ・GPA の学科別分布の解析 ・必修科目の不合格者統計 ・TOEIC スコアの集計解析 ・教室会議、執行部会議、教授会にフィードバックする体制の構築および教室会議での学科毎の測定と対策の検討 ・旧カリキュラムを点検し、問題点等を改善した新カリキュラムを作成し、2019 年度に実施する。 <p>【2018 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 FD 委員会にて留年、休学、退学の状況把握と原因分析を行い、カリキュラムへのインパクトを分析した。さらに、旧カリキュラムを改定し、進級条件等を見直し円滑な進級を可能とする 2019 年度新カリキュラムを作成した。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料 ・理工学部生のための履修の手引き 	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※利用方法を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業改善アンケートを各教員のシラバスに反映させ、フィードバックしている。 ・授業改善アンケートにおける自由記述欄の導入と GPA のクロス集計を実施し、自由記述欄と GPA との関連について分析している。また、記名式にして回答の信憑性を向上させるようにしている（ただし、教員には個人名は公表されない） <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスチェック資料 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程・学習成果についての必要な事項は的確に実施されており、PDCA サイクルが回っている。 ・学部内委員会である、FD 委員会、カリキュラム委員会、研究推進委員会にて現状把握と分析、さらに対策案の検討を行っている。 ・大幅な変更を行った新カリキュラムは 2019 年度から実施する。 	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
特になし	

【この基準の大学評価】

①教育課程・教育内容に関すること (1.1)

<p>理工学部では、教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容が提供されている。2019 年度からの大幅なカリキュラム改定や、教職カリキュラムの見直しに向けた取り組みがなされたことは、高く評価できる。このカリキュラム改定が学生に対して適切であるのか、また運用が適切に行われているかの確認は重要であるので、今後適宜行っていただきたい。コース制や学習フィールドを設定することによって、カリキュラムの順次性・体系性の確保に努めている。また、系統を大別している教養科目においては、進級条件、選択必修科目の対応等を見直す取り組みがなされたことも高く評価できるであろう。新入生全員に対するプレースメントテスト及び TOEIC®が実施され、能力別クラス編成が実施されている。このプレースメントテストの結果により、リメディアル科目の受講を学生に促す取り組みは評価できる。国際性を涵養するために SA プログラムが実施され、英語は必修科目として少人数教育が実施されている。キャリア教育として、インターンシップが実施され、一部の PBL において、他大学や企業との連携が行われている。</p>
--

②教育方法に関すること (1.2)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

理工学部では、ガイダンスでの履修の手引きの配布、学科主任、実験・実習、演習担当教員やクラス担任による履修指導が適切になされている。学習指導を適切に行うために、重要な科目において講義に加え演習が設けられ、またオフィスアワーなどで個別の学習指導が行われている。更に一部の学科では、個々の学生に対して全ての実験項目で試問が行われている。学生の学習時間の確保のために、実験授業においてはレポート提出が課されることにより、学生に自覚を促している。効果的な授業形態として、「主体的な学び」を視野に入れたPBLの必修化は評価できる。一部の必修科目では2クラス化とし、必修語学や演習・実験科目等では、1クラスの学生数の上限を概ね設けることで、1授業あたりの学生数が配慮されている。

③学習成果・教育改善に関すること (1.3~1.5)

理工学部の成績の評価方法、評価基準については、Web シラバスに明記されている。GP 及び GPA、場合により GPT が算出され、全体のフィードバックが行われることによって、評価基準の共通認識が高められている。中でも卒業研究では、発表会の実施によって複数の教員による単位認定の判断が行われている。学生の就職・進学状況は、各学科に就職担当が置かれ、キャリアセンターと連携して把握されている。学科・学部において、成績分布の把握のために GPA の学科別分布や必修科目の不合格者統計が取られ、進級・留年状況が把握されている。分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標として、専門科目の実験における個々の学生への試問や、研究成果の学会発表等が利用されている。3、4年次全員の学習成果の把握は、少人数ゼミにて行われている。成績に関する基本統計データはグラフ・表として、卒業研究は卒業論文として可視化され、学部教員間で共有されている。必修科目の不合格者数の定期的な検証や、授業改善アンケートの自由記述欄と GPA をクロス集計する取り組みは、評価できる。

2 教員・教員組織

【2019年5月時点の点検・評価】

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・FD委員会を新設しFD推進のための検討体制を強化した。
- ・FD活動については執行部が主導のもと各学科が実行主体となり推進している。

【2018年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- ・全学科で授業相互参観を行っている。2018年度秋学期は、学部全体で専任教員の担当する全科目を公開し兼任講師の科目についても実施した。今年度は、複数教員が協力して行っている科目については、教員が協力して授業を作っている授業も把握した。昨年度37科目に対し今年度は59科目を実施した。
- ・授業改善アンケートにおいては独自質問を設定し、授業の改善に向けた懇談会を行っている。授業改善アンケートにおける自由記述とGPAのクロス集計を行い教員へのフィードバック情報の有効性を高めている。
- ・研究活動状況を研究集報として公表し、教員の当該年度の研究業績や学会活動を掲載している。
- ・学生モニター制度を活用し、個別教員に対する意見があった場合、執行部から当該教員に改善点を連絡している。
- ・FD推進センターの各種イベントを所属教員に周知している。
- ・理工学部FD委員会の検討結果は教授会で報告し議論を行い意識の共有を図っている。

【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

学部FDの一環として、FD推進センターの主導で理工学部「教員による授業相互参観」が毎年実施され、授業改善アンケートとともに、授業の質の向上につながっていると思われる。教員の稼働の負担も考慮しつつ参観数を増加させた。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料

②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。

- ・相互の研究活動を把握し、シナジー効果を高めるために、本年度から開催を開始した小金井研究セミナーに参加し発表やディスカッションを行った。
- ・お互い研究成果を客観的に把握できるようにするために、研究集報を発行している。
- ・学会等での受賞、表彰について、教授会にて紹介している。
- ・地域向けの公開イベントを開催している。また、スポーツ交流イベントに参加している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・理系同窓会と連携し、企業、教員、学生との交流イベントを開催し、連携を促進した。 ・理系同窓会連携委員会を新たに設置し、卒業生が就職した企業との連携の活性化を図った。
<p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から開始した小金井研究セミナーに参加し発表やディスカッションを行い、他学部の研究内容の理解を深めた。 ・法政大学が開催する科学技術フォーラムの出展に協力する予定である。 ・理系同窓会と共同し、企業、教員、学生との交流イベントを開催し、連携を促進した。 ・理系同窓会連携委員会を新たに設置し、卒業生が就職した企業との連携の活性化を図った。
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部教授会資料

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・教員による授業相互参観は確実に実施されている。 ・理工学部 FD 委員会を設置し、状況の分析や対策を検討する体制が確立している。 ・理系同窓会との連携強化を図っている。 	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観は学科により実施程度のばらつきがあるので、より適正に実施する。 	

【この基準の大学評価】

<p>理工学部では FD 委員会において FD 推進に向けた検討が行われており、その検討結果が教授会で報告されることによって、意識の共有が教員間でなされていることは評価できる。全学科において教員による授業参観が実施されているが、学科により実施程度にばらつきがあるので、今後の改善が望まれる。FD 活動は教授会執行部主導のもと、各学科が主体となって実施されており、適切に行われている。研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための取り組みとして、小金井研究交流セミナーの開催、研究集報の発行や、新たな理系同窓会連携委員会の設置による企業との連携の活性化は、高く評価できる。</p>

III 2018 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	内部質保証	
1	中期目標	内部質保証について運用体制を構築し PDCA サイクルを確立する。	
	年度目標	質保証体制を確実にし、より優れた FD とするために FD 委員会を設置し運用する。質保証委員会の内規を作成する。	
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・FD 委員会の適切な運用を行う。 ・質保証委員会の内規を作成する。 	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	<ul style="list-style-type: none"> ・FD 委員会を新たに立ち上げ、留年、休学、退学の経年変化と原因分析および教学 PDCA をまわすための客観的指標について具体的な検討を行った。 ・質保証委員会については内規を策定して適正な運用を行った。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・FD 委員会を立ち上げ、学生の留年、休学、退学の状況の変化を年度毎に客観的に捉え分析を行う等適正に運用されている。 ・質保障委員会も内規を作成し適正に運用されている。 		
改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・検討してきた客観的指標に基づいて、内部質保障のための PDCA サイクルをより適切に運用することが必要である。 		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
2	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムポリシーに基づき最適なカリキュラムとする。 理念・目的に合った教育内容であるかの確認体制を確立する。 	
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度にカリキュラムポリシーに基づき変化する状況に対応したカリキュラムとするために改正を行う。 新カリキュラムに対応したカリキュラムマップ、カリキュラムツリーの改良を行う。 全シラバスチェック方法の効率化を行う。 	
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度からの新カリキュラムを完成させる。 現状のカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを2019年度新カリキュラムに合わせ改正し、さらに理解しやすいものにブラッシュアップする。 全シラバスを効率よくチェックする方法を検討し、実施する。 	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	<ul style="list-style-type: none"> 全学科が2019年度からのカリキュラムを見直し、新カリキュラムを策定した。 新カリキュラムに対応したカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを作成した。また、カリキュラム委員会にて、カリキュラムツリーの様式について検討を行った。 シラバスチェックの効率的な方法についてカリキュラム委員会にて検討を行い、実施した。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見		<ul style="list-style-type: none"> 新カリキュラムの見直しを行い、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを作成し、カリキュラムの構成を明らかにした点は評価できる。 また、シラバスの効率的なチェック方法を検討し実施した点も評価できる。 	
改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムポリシーに基づいたカリキュラムであるかを効率的にチェックするために、カリキュラムツリーをより見やすい形式にする必要がある。 		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
3	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 留年・休学・退学者を減少させる。 教員による相互チェックによる品質の向上を強化する。 	
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 留年、休学、退学の状況や原因を精査・分析する。分析結果に基づいて対策案を考案する。 教員による相互授業参観を充実させる。 	
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 留年・休学・退学データの取りまとめとその分析結果を示す。(留年・休学・退学者数) 教員による授業参観については、全体数および兼任講師の科目について参観数を増やす。相互参観授業数を10%程度増加させる。 	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	<ul style="list-style-type: none"> FD委員会にて、留年、休学、退学の経年変化と原因分析を行った。 相互参観については、複数の教員が共同で実施する科目での相互参観を強化した結果科目を増やし56科目(昨年度37科目)とし10%以上増加させた。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見		<ul style="list-style-type: none"> 留年、休学、退学の経年変化と原因分析を行った点は評価できる。 	
改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> 教育効果を上げることができるよう、授業に反映する仕組みを検討する必要がある。 		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
4	中期目標	ディプロマ・ポリシーに基づく評価を実現する。	
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度の新カリキュラムに対応したカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを構築する。 カリキュラムマップ、カリキュラムツリーに従った授業かどうかを確認する。 	
	達成指標	2019年度版新カリキュラムマップ、カリキュラムツリーをチェックするとともに作成する。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	・ディプロマポリシーに従った新カリキュラムを作成した。新カリキュラムに対応したカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを新たに作成した。新年度に公開予定である。
		改善策	－
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	・ディプロマポリシーに基づいたカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを作成した点は評価できる。
		改善のための提言	・カリキュラムマップ、カリキュラムツリーに基づいて、授業が行われているかのチェックが必要である。
No	評価基準	学生の受け入れ	
5	年度末報告	中期目標	アドミッションポリシーに基づく入学経路の最適化し、より優秀な学生を受け入れる。
		年度目標	・指定校推薦について、よりよい学生が来る高校の選別を強化する。 ・付属校においては、理系進学数を増やす方を提案する。
		達成指標	・指定校推薦の高校についてより状況に適応した適切な選別を行う。 ・付属校に対する対策案を構築する。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	・執行部において指定校の選定に関して現在の選定結果の影響（入学生の成績状況等）について分析した。 ・付属校・入試制度検討委員会にて、付属校からの推薦状況把握を行い、対策を検討した。 ・今後、アンケート調査等を行いより正確な状況把握を行い、詳細な検討を継続する。結果の分析と対策については今後さらに検討を深める予定である。
		改善策	－
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	・指定校選定結果の影響を分析し、付属校からの推薦状況を検討した点は評価できる。
	改善のための提言	・アンケート等によるより正確な状況把握を進める必要がある。 ・付属校からの理系進学者を増加させる方策の検討が必要である。	
No	評価基準	教員・教員組織	
6	年度末報告	中期目標	・年齢構成を適正化する。 ・教育研究支援体制を確立する。
		年度目標	・本年度の退職による教員補充について、年齢や専門分野を考慮し、適正な採用を行う。 ・教育研究支援体制については、教務助手制度の円滑な運用を実現する。
		達成指標	・退職者に対応して適正な採用を行い、年齢構成の改善を図る。 ・教務助手制度の各種規則や運用について明確化する。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	・教員補充に対して適切な対応を行った。 ・最初の運用となる年度であり教務助手の移行を円滑に行った。
		改善策	－
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	・教員補充を年齢構成を考慮し適切に行い、教務助手の移行も円満に行われた。
	改善のための提言	・各学科で、専任教員の採用について長期的な計画策定が必要である。 ・教務助手の各学科採用枠についての指針も検討する必要がある。	
No	評価基準	学生支援	
7	中期目標	・留年、休学、退学を減らす学生の対策を確立する。 ・成績不振学生に対する支援活動を充実させる。	
	年度目標	・留年・休学・退学の状況や原因を精査・分析する。分析結果に基づいて対策案を考案する。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		・成績不振学生の定義の最適化および状況把握を行い支援のための対策案を作成する。
	達成指標	・留年・休学・退学の状況や原因を精査・分析し、対策案を作成する。(留年・休学・退学者数) ・成績不振学生に対する状況把握と対策のためのヒヤリングを充実させる。(ヒヤリング率)
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	・2019年度新カリキュラムを策定するなかで、留年率を適正にするように、進級条件およびカリキュラムの見直しを行った。さらに、FD委員会にて、留年、休学、退学の経年変化と原因分析を行った。 ・成績不振学生については、状況把握と対応を行った。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	・留年者を減少できるように進級条件とカリキュラムの見直しを行い、成績不振学生のヒヤリングも行い状況も把握を行った点は評価できる。
	改善のための提言	・国際化に向けて、外国人留学生に対する対応方法の検討が必要である。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
8 年度末報告	中期目標	他大学、企業、地域との連携を活性化する。
	年度目標	地域にむけた一般者向けのイベントを充実させる。
	達成指標	地域向けのイベントや講演を増やす。(イベント数)
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	・地域向けのイベントを子供向けにするなど改善して継続して開催した。 ・小金井キャンパスとしての活動である KLAC によるスポーツ交流イベントに継続して協力した。また、駅伝壮行会には小金井市長が参加するなど地域との連携強化が図れた。
	改善策	—
質保証委員会による点検・評価		
所見	・子供向けイベント、スポーツ交流イベント等を開催し地域貢献を行っている。	
改善のための提言	・イベント参加者へのアンケート調査を行い、今後の改善策に活かす。	
【重点目標】		
教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】		
カリキュラムポリシーに基づき最適なキュラムとする。そのために、2019年度はカリキュラムの設計と準備を行い、2019年度に実施する。その後は、改定カリキュラムが適正に運用されているかチェックを継続し、必要があれば改善する。		
【年度目標達成状況総括】		
概ね、年度目標を達成することができた。特に、ディプロマポリシーに基づくカリキュラムの設計、留年率等の適正化を目指した進級条件の見直し、現状の課題への対策などを実現した2019年度に向けた新カリキュラムを作成し実行準備を整えた。また、新カリキュラムに則したカリキュラムマップ・カリキュラムツリーを作成した。大規模な改定であったが、来年度へ向け実施する準備を整えることができた。また、留年、休学、退学の現状調査、推薦入学の現状調査を実施し、現状を把握することができた。		

【2018年度目標の達成状況に関する大学評価】

年度目標が概ね達成されていることは評価できる。特に教育課程・学習成果や学生支援において、現状の課題への対応として、新カリキュラムを策定し運用を開始できたことは高く評価できる。学生の受け入れについては、指定校推薦の高校の選定に関して選定結果の影響についての分析が行われ、その結果をもとに新たな指定校が選定された。また、学生支援に関しては、留年、休学、退学の状況等の分析が実施され、2019年度のカリキュラム改定(進級条件や専門科目の配置等)に反映された。ただし、これらの取り組み結果については、インタビューにより確認ができたが、今後は年度末報告の際に詳細な記載が望まれる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

IV 2019 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	内部質保証について運用体制を構築し PDCA サイクルを確立する。
	年度目標	・FD 委員会の運営を円滑に行う。
	達成指標	・各種データを収集・整理し学部で共有することによる可用性。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	・カリキュラムポリシーに基づき最適なカリキュラムとする。 ・理念・目的に合った教育内容であるかの確認体制を確立する。
	年度目標	カリキュラム改定の初年度にあたるため、まずは、適正に運用が行われることを確認する。
	達成指標	・初年度状況をモニタリングし状況の把握をしていること。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
3	中期目標	・留年・休学・退学者数を適正にする。 ・教員による相互チェックによる品質の向上を強化する。
	年度目標	・カリキュラム改定の初年度となるため、留年・休学・退学者を継続的に測定し、新カリキュラムの効果を分析する。 ・相互参観について、兼任講師担当科目数を増やす。
	達成指標	・留年・休学・退学者の計測を行い可視化、共有していること。 ・兼任講師担当科目の参観科目数。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
4	中期目標	ディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーに基づくカリキュラムを実現する。
	年度目標	新カリキュラムとディプロマポリシーの対応を確認し、カリキュラムマップを作製する。
	達成指標	・新カリキュラムのカリキュラムマップ、ツリーを、Web にて公開していること。
No	評価基準	学生の受け入れ
5	中期目標	アドミッションポリシーに基づく入学経路を最適化し、より優秀な学生を受け入れる。
	年度目標	・入学経路については継続的に検討していく。 ・指定校推薦について、適正な高校を指定するために、指定高の選定を実施する
	達成指標	・指定校について見直し効果的な高校について選定していること。
No	評価基準	教員・教員組織
6	中期目標	・年齢構成を適正化する。 ・教育研究支援体制を確立する
	年度目標	・退職者の後任人事に際して適正な採用を行い、年齢構成の改善を図る。 ・テニユアトラック制度について、理工学部として円滑な導入を図る。
	達成指標	・新教員採用時に年齢に考慮し、高齢者に偏らない分布としていくこと。 ・テニユアトラック制度の規定類を制定すること。
No	評価基準	学生支援
7	中期目標	・学生に対するサポート体制を充実させる。
	年度目標	・新カリキュラム導入の初年度であり、進級基準が変更になっている学科も多く、特に留年数について計測・分析を続ける。 ・ラーニングサポータ制度の効果的な運用を図る。
	達成指標	・留年・休学・退学者の計測を行い可視化、共有していること。 ・ラーニングサポータ制度運用について各学科の現状を把握するとともに、学生に対する効果を把握していること。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
8	中期目標	他大学、企業、地域との連携を活性化する。
	年度目標	・法政大学科学技術フォーラムへの出展に積極的に参加する。 ・理系同窓会と連携イベントを開催し、企業と教員および学生との連携を図る。
	達成指標	・法政大学科学技術フォーラムは今年度初実施となるため、その状況を把握し、出展数等を

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	適正にしていること。 ・理系同窓会との連携イベントの参加者数。
【重点目標】 2019 年度新カリキュラムが適正に運用が行われていること。状況把握のために各種データを収集・整理し学部で共有することによる可用性の向上を図る。	

【2019 年度中期・年度目標に関する大学評価】

カリキュラム改定を行ったことにより、それに関する年度目標と達成指標の設定は妥当であると思われる。年度目標にあるように、適切に新カリキュラムが運用されているかの確認を、多角的に行っていただきたい。一方、前年度と同じ目標が再度掲げられている項目が幾つか存在する。理工学部では既に内部質保証の体制が構築されている。その体制を活用するためにも、年度末報告に記載されている質保証委員会の所見・提言等を参考に、中期目標達成に向けた年度目標・達成指標の設定を今後検討していただきたい。

【法令要件及びその他基礎的要件等の遵守状況】

特になし

【大学評価総評】

理工学部では、大幅なカリキュラム改定が 2019 年度に行われた。今後適切にカリキュラムが運用されているかどうかの確認を、学生と教員それぞれの視点から、各学科・学部にて行っていただきたい。教育課程については、各学科、各コースそれぞれの課程に相応しい教育が行われている。中でも、新入生全員を対象としたプレースメントテスト結果に対応したリメディアル科目の設置などは、評価できる。また、効果的に教育を行う措置、授業形態として、下級生に対する上級生によるチューター制度の導入や、スキル向上のための少人数クラス必修科目の設置、PBL が必修科目として設置されているなど、学部独自の履修指導や学生指導が実施されていることも評価できる。成績評価、単位認定及び学位授与については、適切になされている。特に卒業研究については、発表会を実施し、卒業論文提出を義務化して、複数の教員により単位認定の判断が行われていることは評価できる。学習成果の把握と評価については、成績分布、進級などの状況が学部、学科にて把握されており、学習成果を測定する指標として学会発表等を取り入れているのは、分野の特性に応じた取り組みであろう。学習成果の可視化については、一層の取り組みを期待したい。学生ポートフォリオの活用等、今後の取り組みに期待したい。教員・教員組織については、FD 委員会が新設され活動を開始したことや、研究活動や社会貢献等の活動が活発に行われていることは評価できる。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。